

## 第9回鳥取市市政改革推進市民委員会・議事概要

日 時：令和7年10月24日（金） 午前10時05分から12時03分

会 場：鳥取市役所 本庁舎7階 第2委員会議室

出席者：《委員》7名出席

山下 博樹 委員長、谷口 明洋 副委員長、川口 有美子 委員、古賀 真美 委員、

大橋 良輔 委員、森田 祐加 委員、土橋 勉 委員、小柴 正子 委員

《鳥取市》

行財政改革課：宮崎課長、米田参事、若田主幹、山崎主任

市立病院 経営改革室：木村室長、総務課：松田次長 谷口課長補佐

水道局 経営企画課：青木課長、横原課長補佐

教育総務課：山名次長、石原係長、田中主事

政策企画課：上田課長、山中係長

---

### 会議内容

#### 1. 開会

#### 2. あいさつ

副委員長：

今日は急遽、司会進行等させていただく。活発な議論をしていくためご協力をお願いしたい。

#### 3. 議事

##### 鳥取市市政改革プランにおける担当課ヒアリング

対象担当課：市立病院

対象計画：53130：病院事業の経営健全化（収益的収支の黒字化）

（担当課ヒアリング資料P3～9を用いて説明）

##### 【質疑応答】

A委員：

病院経営強化プランで6つの項目を掲げているが、定量的な目標はあるのか。

市立病院：

救急車受け入れ台数、手術の実施件数の目標がある。また、市立病院は在宅療養後方支援病院であり開業医との連携をすすめているため、開業医から紹介いただいた患者数などの数値目標値を測っている。その他、病床の稼働率からどのくらい病棟が動いているか、初診の患者の紹介率といったものを目標数値に定めている。

B委員：

限られた病院の財源の中で、例えば医療機器の更新や設備の修繕など優先順位はあ

るのか。

市立病院：

高額だが必要な内視鏡や MRI などには耐用年数等を加味して更新するが、どこに投資を集中させるかについては、他の病院と差別化を図られる診療科、市立病院で言えば眼科や泌尿器科、消化器内科であり、将来的にも患者数の確保が見込まれる、かつ医師も確保できる、そういったところへ高額機械を購入している。例えば令和3年度に手術支援ロボットダビンチに3億円を投資し、泌尿器科の手術において傷が小さく、遠隔で正確な手術が可能になった、そのことにより岡山大学から医師が派遣され、医師が1人増える好循環となっている。このような観点から総合的に見て力を入れる診療科への投資を進めている。

C委員：

総合病院は紹介状が必要だったり、初診料が高かったりと敷居が高いイメージがある。経営強化プランでは、入院患者も外来患者も毎年増えていく目標となっているが、高齢者の増加とか、県外から治療に来る人が増えるとか、どんなことが患者の増える要因なのか。

市立病院：

診療報酬は国に決められており、価格が上げられない以上は患者数を増やすしか収益は上がらない。国の政策で、初診はかかりつけ医を受診して総合病院に紹介する流れが決められている。自然に患者数が増えることはないため、開業医からの紹介を増やすこと、救急車の受け入れを増やすこと、人口は減るが高齢者は増えるため、介護施設等と連携し施設から紹介してもらおうといった取組みから目標に近づきたい。配布のチラシにもあるが、整形外科でロボット手術支援ロボットを導入した。また、スポーツ整形の専門医もいる。こういった事を地元の開業医にアピールしていく。そんな地道な努力をしたうえで、収支改善するための目標を立てている。

C委員：

スポーツ整形があることを知らなかったが、県外からも来る人があるかもしれないので、しっかりアピールしていただきたい。

D委員：

鳥取県東部は人口規模に比べて総合病院がかなり充実している。人口は減っているのにこれらの病院を維持管理するのは困難。各病院の役割分担を考える時期になっていると考える。一方、通院していて毎回医師が変わる話も聞いた事があるが、患者数を増やす取り組みをしても、これまでの方針では立ち行かなくなることも考えて行く必要があるのでは。

市立病院：

言われるように、単体の病院の努力で黒字化することは困難な状況。鳥取県東部は県立中央病院が3次救急として重篤な患者が搬送される。そして2次救急が市立病院と日赤病院と生協病院となっている。生協病院では回復期や療養にシフトしつつあり、市立病院と日赤病院が2次救急として中等症ぐらいの患者を診る役割分担ができつつある。しかし今後は患者数も限られてくるため、病院の適正な配置を考える時期であるこ

とは承知している。他県では民間病院と公立病院の合併という動きもあるが、この地域では病院の系列の違いをどう超えていくかという事が課題になると考える。

D委員：

申し上げたのは、2次救急を担うにしても、全ての診療科を維持していくことは医師の確保の面からも難しくなっていると思ったので、診療科の部分でも住み分けをするなど、ライバルではなくお互いのメリットを活かしていただきたいという事である。

E委員：

市立病院の最上階のレストランが閉店されており、経営面で気になっていたが、状況はどうか。

市立病院：

10月より新たな経営者が決まり、開店している。

～市立病院のヒアリング終了～

**対象担当課：水道局**

**対象計画：53140：水道施設の耐震化の推進と経営の効率化**

(担当課ヒアリング資料 P13～25 を用いて説明)

**【質疑応答】**

F委員：

水道料金は市民の生活に密接に関わるため、丁寧な説明が必要と考える。経営の安定だけでなく、技術者不足など10年後にどうなるかという問題もあるのでは。できれば安く水道を供給していただきたいが、水道の維持に大変な労力が必要なことが市民に伝わればよいと思った。

水道局：

言われるように技術者の確保は課題であり、ここ数年前から若手職員への技術の継承を始めている。本市の水道は110年の歴史があるところを紹介したが、先人の努力や過去の経験といった財産を伝えていきたい。また今年から市民向けにバスツアーを行い、水道事業について知ってもらう一方で、生の声を聴く事にも力を入れている。

A委員：

資料17ページの米子市との対比から歴史的な積み重ねや地域的な背景は理解したが、一方で施設に掛るコストが高い。そんな中で資料23ページにあるように、施設の統廃合やダウンサイジングという言葉が載っているが、これについてお聞きしたい。

水道局：

米子市は平野部が多いため、少ない施設で効率よく給水できるが、山間部の多い鳥取市の場合、水道が山を越えることはできないため、水道が点在する小さな集落に設けられており、それが統合されたため施設の数も多くなる。

統廃合はそういった旧簡易水道の配水池を可能な場合は統合したり、水源を1つにしたりすることである。ダウンサイジングは水道事業の規模について、水需要が減少し

ているため、現水道施設は少し大きめになっている。そんな水道施設を更新するときに縮小することである。例えば 300 ミリの管なら更新の際に 250 ミリに落とししたりする。すると事業費も安くなるので、そういった取り組みを計画的進めている。

D委員：

かつては日本に住んでいると「水はただ」のような状況もあったが、現在は宅配の水を購入する世帯も増え、他の自治体では水道水をペットボトルで売っている話も聞く。鳥取市の水道水も普通に飲めるので、そういう点をアピールしながら必要な値上げを検討していくものとする。

～水道局のヒアリング終了～

対象担当課：教育総務課

対象計画：31210：民間資源の活用（学校プールのあり方）

（担当課ヒアリング資料 P29～39 を用いて説明）

【質疑応答】

D委員：

基本的な事をお聞きするが、現在鳥取市内に公立学校の児童生徒が使わせてもらえるプールは何か所あるのか。

教育総務課：

水泳の授業に活用ができる環境がある施設として、説明の中で出たサンフィッシュスイミングスクール、智頭温水プール、鳥取市福部ほっとスイミングプールの 3 か所と、フィットネスクラブ PAJA 鳥取、フィットネス&スパ Zero スポーツ、B&G プールなどが活用可能と考えている。

D委員：

そういうプールが立地するのは街中が多いと考えるが、説明された自校のプールを整備する方が効率的な大きな学校も街中に多いと考える。

学校外のプールを利用したい小さな学校が民間や公共のプールを利用するためには、移動などいろいろ工夫が必要と感じた。

教育総務課：

言われるとおりで、移動時間を長くかけないようにすると実施できる学校は限られる。また、大規模校は輸送面の問題があり、民間プール側としても受け入れる児童生徒が多すぎると、他の利用者への影響もある。バランスよく検討する必要がある、今年度に検討委員会で進めたい。

B委員：

資料 33 ページに教職員の声がかかっているが、水質管理などの負担は大きいのか。

教育総務課：

資料にもあるようにプールの季節に入ると、日々の水質管理に業務の手が取られている。民間のプールを活用することで維持管理面での負担は少なくとも減る。指導にお

いてもインストラクターが付く安心感もある。ただ教職員もノータッチではなく、水泳授業の評価もあるため一緒に入って連携を取る体制が望ましいと考える。

C委員：

大規模校は民間のプールを使わないのであれば、教職員の負担軽減にならないのではないか。

教育総務課

言われるとおりそこが課題で、民間のプールを使っている学校は教職員の負担は軽減されるが、使わない学校の教職員の負担はこれまで通りとなる。

その対策は必要で、学校間で負担などに差が出ないように、検討委員会で検討を進めたい。

D委員：

自分も学校プールの管理に関わったことがあるが、水質管理よりも年度初めのプール清掃など施設の維持が大変だと思う。

F委員：

地区単位で中学校のプールを使ったり、地区で運営するプールを活用する方法も考えてみては。中学校や高校となら業務負担を振り分けていけるのではないか。インストラクターがつくことが一番安心とは思いますが、負担面を考えると他の学校利用も視野に入れていいのではと思う。温水プールなら時期をずらして夏でなくてもよい、いろんな方法が考えられる。

D委員：

施設維持の負担はなくなっても移動の負担はあり、すべての負担がなくなることはないが。

G委員：

大規模校は自校のプールで、中小規模の学校は民間プールという方向であるが、鳥取市の小学校は小規模校の数が多い。それだけの民間施設を活用できるかシミュレーションはしっかりされるとよいと思う。また、大規模校のプールを借りに行く方法も指導する教職員の負担は減らないかもしれないが1つのアイデアである。ただ、校種が違くとプールの深さが違い危険な面があるため、校種は揃えた方がよい。

一方、廃止プールの活用については防災用に活用する話もあったが、ただ水を溜めておけばよいものでもない。メンテナンスをどうするのかビジョンを考えられるとよいと思った。

教育総務課：

1つ前にいただいたご意見にも関連するが、プールの民間活用以外に集約化や拠点化も選択肢の1つと考える。実際に義務教育学校の鹿野学園では以前の小学校・中学校の2つ建物がありプールも2つであったが、現在は小学校側に集約している。

他の学校でも拠点化を検討できる場所はあるかもしれないので、そういった方法も検討委員会で検討していきたい。

使用しなくなったプールは事前質問にもあったように、消防水利の役割もあると考えるが、それ以外にも最近夏場に大雨が降るため雨水を溜める実験を鳥取県から提

案されている。効果はまだ分からないが、維持管理の面で財政的な負担にならないように検討したい。

貴重なご意見に感謝する。

～教育総務課のヒアリング終了～

**対象担当課：政策企画課**

**対象計画：22310：自治体間の広域連携の推進**

(担当課ヒアリング資料 P43～66 を用いて説明)

**【質疑応答】**

A委員：

質問よりは要望に近いが、様々な規模の広域連携を進めるメリットには相互補完や効率化があると思う。各規模の連携では鳥取市に求められる役割があると思うが、特に鳥取・岡山県境連携推進協議会での役割は何かを明確にされながら、鳥取市の課題解決にフィードバックできることを期待している。

政策企画課：

鳥取・岡山県境連携推進協議会は県境に接している、規模も様々な市や町が共通の課題に対して要望をとりまとめ、国や県に要望活動を行う。例えば道路整備などの案件が多い。この協議会における鳥取市の役割も考えながら引き続き対応をしたい。

D委員：

現在、広域連携をしていく上での課題はどんなことがあるか。

政策企画課

連携の課題について、連携する市や町の目的は持続可能な地域を次の世代へ引き継いでいくことで、思いは同じであるのだが、例えば連携する分野で比較的利害が一致している観光は、一つの商品として一緒に売り出した方がより効果的であるのでまとまりやすい。一方、除雪事業や窓口業務などの行政事務の仕様を一元化すると、費用負担が生じたり、各市町のやり方があったりなど、進み難い状況がある。

これから人口が減少していくので、同じ事務については一つのやり方を進めることはメリットがあるのだが、ハードルがあると感じている。

～政策企画課のヒアリング終了～

委員長：

本日の担当課ヒアリングは以上であるが、全体を通してご意見があれば。

B委員：

各計画について丁寧に説明いただいた。今日は市民生活に密接した計画が多く、例えば自分は鳥取に住み始めて水道料金が高いことに驚いたが、今日の話で米子との違いも理解できた。事前質問にも詳しく回答いただき勉強になった。

委員長：

その他よろしいか。

では、次回の日程とヒアリングの担当課を以下のとおり確認し、閉会とする。

ご協力感謝する。

次回：第10回鳥取市市政改革推進市民委員会

日時 11月13日（木） 午前10時～12時

場所 本庁7階 第2委員会室

議事 鳥取市市政改革プランにおける担当課ヒアリング

協働推進課・地域福祉課 12110：市民ニーズに応える地区公民館の推進

22110：地域運営組織との連携

職員課 11110：職員の施策立案・事務能力の向上

11210：人材確保に向けた情報発信強化と採用試験の見直し

資産活用推進課 52170：広告事業のさらなる拡大

生活環境課 42120：不要品の販売（大型ごみ、不要備品）